

今年（平成6年）の春、第8次を冠する白山-BHPWが計画されましたが、市ノ瀬から大汝までのピストンで終了しました。

そしてワンゲル初の、このルートを使つての夏合宿が、猛暑だったこの夏実施されました。

ルートについて、先に補足しますと、高三郎から見越山のかつてのワンゲル道はほぼ痕跡なし。ブナオ峠（五箇山刀利自然休養地として野営場他の整備が整えられています）から赤摩木古経由で伸びている登山道と合流する見越山頂から道はよくなり、奈良岳、大笠山では、むしろ馬鹿でかい標柱や、ベンチ・テーブルなどの設備に興醒めさせられる程です。大笠から、三方岩岳までは原始のままの秘境の山々が残されています。（大笠山については、今春から、境川ダム経由フカバラノ尾根コースが開通し、健脚向きながら日帰り山行が可能となりました）

水については、かつては行動中の最低限の水の全量を担いでいく方式でした。重量、嵩ともたいへんな負担をしいられました。現在は、多くの藪漕ぎパーティーが採っているように、現地で沢を下りて水を確保してくる方式が採られています。とはいえ、下りは10分程でも戻りは、水ボリを担ぎ、一日の疲労がどっとでてくる中で急斜面を一時間以上かけて這い上がり…死に物狂いの苦労があったようです。ミスターKUWV達の汗を讀えつつお読み下さい。

'94白山Party

夏合宿の記録

リーダー 山本 英男



8月4日（1日目）晴れ

オロロが襲いかかる中、必死の思いで新道とつきのテン場へ。早くも下山したい衝動と前進しなければならないという葛藤に苦しめられる。

8月5日（2日目）晴れ-曇

とりあえず高三郎を越えるということを合言葉に、うだるような暑さの中、夏合宿初めての

ヤブコギに突入。リーダーの判断ミスでテン場予定地のワンゲル平に着いたのは、就寝時間まであとわずかの午後5時。水たまりの水を飲んで一息つく。

8月6日（3日目）晴れ-曇

見越山南稜に出てヤブ明けの快感を知る。これからは、快適な登山が続くと思ったら、夏合宿の行程中、最悪の暑さを体験する。歩き始めて10秒程でサウナ状態となる。みんなで瀬波川の冷水を飲んで体力が回復するが、大笠山まで行けず、登山道の上にテン設することになる。今日も午後5時到着。

8月7日（4日目）晴れ

大笠山のフカバラの尾根から下山して再び三方岩に登りかえすという方法を思いつき、前日そのように決定したが、大笠山のピークに立って笈を見た時、ヤブをこいで笈のピークに立ちたいという気持ちに押され、とりあえず出発した。この日も大笠山の最低鞍部で水を汲む、宝剣のピークでテン設できそうな場所を見つけ、テントを張る。宝剣から見た笈は迫力があつた。

8月8日（5日目）晴れ

ようやく笈ヶ岳の山頂に立つ。感慨深いものがあったが、やはり笈のピークも蒸し暑かった。通称、小笈のテン場という夢テンまで行き、午後は久しぶりにのんびり過ごした。

8月9日（6日目）晴れ

今日の行程は仙人窟の池塘までなのでそれほど長くない。予定より丸一日遅れているが、とりあえず一日一日辛抱強く行きたい。仙人窟の池塘は噂通り快適なテン場だが、池塘の水は小さな虫だらけで、今まで沢の水を飲んでいた僕は多少の抵抗を感じた。ここから見た笈・大笠は白山山系の素晴らしさを全て語っているような感じで、やたら立派に見えた。

8月10日(7日目) 晴れ

2万5千分の1の地図では仙人窟の池塘からゴールとなる三方岩岳まで、もう目と鼻の先といった感じである。岩底バットレスの手前の岩峰群で景色を楽しんだあと、いよいよ国見山の急登にとりかかる。そこで、今日中に瓢箪山の展望台まで行けるだろうと楽観的に考え、持っていた水の大部分を捨てたのだが、これが大失敗であった。水を捨てて軽くなったにもかかわらず、進むスピードはあまり変化がなくて、結局午後7時、薄暗くなった瓢箪山頂上付近の溝にビバークするはめとなる。みんなさすがに疲れきって元気がない。ボカリを飲んで早々に寝る。

8月11日(8日目)

1Pほどで道のある瓢箪展望台に到着。ついにヤブから抜け出し、みんな多少疲れた顔をしているが、さすがにさわやかだ。スーパー林道に一時的に下りて、三方岩の駐車場でのんびり朝食を食べて、小屋跡のテン場へ行った。駐車場は観光客が多くて少し恥ずかしかったが、ヤブを抜けた今、そんなことはみんなどうでもよいといった感じだった。

8月12日(9日目) 晴れ

北縦走路を南下し、ゴマ平ヒュッテまで進む。途中、オモ谷に寄り道したり、快適な山歩きが続く。道があると、必ずいつかはテン場に着くという安心感があって、幸せな気持ちにすらなる。北縦走路では人に誰も会わず、北アルプスを眺めながらの登山で、僕はこのコースが気に入った。

8月13日(10日目) 晴れ-ガス-雨

いよいよ白山のピークに立つ日だ。僕以外のメンバーの全員は、白山のピークに行ったことがなく楽しみにしていたのだが、台風のせいか風が猛烈に強く、ガスがかかっていて展望は全くない。室堂は相変わらずの混雑ぶりで、下界

に来た感じさえあった。

8月14日(11日目) 雨-曇 沈黙

朝から雨が降っているので沈黙。寝たり起きたりの繰り返し。ヒマでしょうがない。食糧もたいしたものがなく、残りのミーティング食をすべて食べてしまった。

8月15日(12日目) 晴れ

別山を越えて、神鳩の宮避難小屋へ。このあたりは金大ワンゲルは何年か前に1度来たきりで、ほとんど山に入っていないようだ。小屋のノートには、都立大や、大東文化大のヤブこぎの記録があった。大日ヶ岳方面へは今回は諦めて、後輩に期待することにする。時間が余ったのでそのまま石徹白へ下山。水の豊かな町で、四方をすべて山に囲まれており、静かできれいな所だった。

8月16日(13日目) 晴れ

石徹白の小学校で昨日テントを張り、九頭竜湖から福井経由で金沢へ帰る。下界はどこも観光客だらけで騒がしく、ヤブにいた時とのギャップがはげしい。

下山したら感動がこみあげてくるのかなと思っていたが、いつもの山行と同じような、あまりパッとしないものだった。



トビ イラスト竹中 敏
自然人13号より

夏合宿感想

(現役紹介)

現役紹介を、夏合宿の一言感想で行うことにしました。もらった原稿はちゃんとワープロ打ちしてあったのですが、学年と、3回生については役職名を入れたくて、打ち直しました。

4回生は、10月下旬、そろって蒲原さんのお墓参りにでかけ、卒業までには蒲原さんの思い出を含めた一言を書きたいとのことでした。次回に回すことにします。

北アルプスHParty

若山 悟 (3回生 3M議長 理学部 石川県)

山はやっぱり晴れ山だと思った。毎日午前中にテン場に着き、それから昼寝。もう最高。晴沈もあり、とても楽しい山行だった。

福田 武志 (3回生 主将 文学部 京都府)

3年連続の槍ヶ岳、3年連続の360度パノラマ。もう文句なし。

浅野 嘉之 (2回生 教育学部 大阪府)

熱を出して申し訳ありませんでした。楽しいメンバーで、晴れた山行で、よかった。

神垣 聡美 (2回生 法学部 大阪府)

北アが清々できてよかった。一度は行ってみてほしい山だと思う。

宮本 浩二 (2回生 理学部 富山県)

久しぶりの晴れた山行だった。青空を見飽きた山行だった。

岩倉 里英子 (1回生 工学部 富山県)

ふり返った時、自分の歩いた道のりに感動しました。山の空気は冷たかった。



老田 浩章 (1回生 文学部 石川県)

ド快晴で北アルプスにおぼれ、縦走できてとてもよかった。朝の雲海がよかった。

北アルプスIParty

柴田 祐介 (3回生 P審議長 経済 愛知県)

4:04急行北国一針ノ木雪渓一蓮華の大下り一針葉樹林帯の稜線一烏帽子四十八池一水晶岳一笠一御来光一高山手筒花火

新堀 由佳 (3回生 L会議長 文学部 富山)

3年目にして、はじめて夏合宿が成功に終わりました。リーダーの足をひっぱるばかりでしたが、楽しい山行だったので勝手に満足しています。

高石 拓男 (2回生 経済学部 新潟県)

軽装だったので山を楽しめた。全ルート歩けた満足感がある。日焼けできてよかった。

吉原 正敏 (2回生 理学部 石川県)

昨年とはうってかわっての好天で、全コース日程どおり消化できて良かった。針ノ木一烏帽子間は、人も少なく静かでいい山だった。

小泉 誠司 (1回生 理学部 広島県)

幸運だったのか、烏帽子以外はみな順調に進み、自分も最後まで体力ももち、よかった続きの山行でした。

小西 陽介 (1回生 文学部 茨城県)

北アルプスは素晴らしかった。もっといろんな山にチャレンジしたい。

南アルプスParty

藤牧 康子 (3回生 L審議長 文学 長野県)

ますます南アルプスが大好きになった。誰も病気、ケガをすることなく無事に夏合宿を終えた時は、リーダーとして、ホッとした。

戸田 良和 (3回生 副将 理学部 愛知県)

最後の夏合宿がとりあえず晴れていてくれたので、いい山行になったと思う。

金吉 史哉 (2回生 理学部 千葉県)

三伏峠までの道はとってもきつかったなあ。

友野 克利 (2回生 文学部 静岡県)

目指す3000m峰は6峰すべてとれて満足。久しぶりの3000m峰で、少しドキドキした。

西馬 由岳 (2回生 工学部 兵庫県)

楽しかった。ちょっと上回生の気分を味わえた。

勝俣 竜哉 (1回生 文学部 静岡県)

夏合宿に行って、とてもいい体験ができました。

阪本 京子 (1回生 文学部 群馬県)

少しつらい時もあったけど、景色がきれいで、とってもステキな山でよかった。

白山Party

山本 英男 (3回生 P副・OB係 工 神奈川)

最後まで行けず、心の中に結局何かひっかかるものが残ってしまった。ヤブこぎはつらいものだったが、あの中で得たものは大きいと思う。

小林 俊夫 (2回生 工学部 群馬県)

生きて帰れてよかった。この感動を、大好きなあの娘に分けてあげたい。

宇根 悟史 (2回生 工学部 大阪府)

一生忘れられない(だろう)経験をしてしまった。今から思うと、ヤブの中もけっこう楽しかったのかなあ? 服の臭さと、(行動)水の中の水が印象的でした。

佐川 貴久 (2回生 文学部 栃木県)

何はともあれ辛い山行だった。暑さと、虫の多さは計算外だった。あとの喉の渇き。でもやっぱりヤブコギは楽しい!

三浦 永士 (2回生 法学部 愛知県)

真夏のヤブこぎは想像以上にきつかった。雨が降らなかったのが、せめてもの救いだったと思う。どんなに頼まれても、夏の白山-BHはもう絶対に行かないと、心に誓う。



八ヶ岳Party

山口 陽一 (3回生 行審議長 工 静岡県)

天候に恵まれて楽しい山行だった。

橋本 征治 (2回生 理学部 三重県)

野郎Partyでなくてよかった。

正善 久裕 (2回生 経済学部 大阪府)

去年がひどかっただけに、晴れた山はいいなと思いました。

牧原 弘明 (2回生 理学部 北海道)

みんな仲良く元気良く、さらに元気良く山に登れてよかった。

石谷 留美子 (1回生 工学部 富山県)

八ヶ岳は素敵なお山でした。楽しさいっぱいでした。

川本 幸代 (1回生 教育学部 岐阜県)

天気もずっと良く、楽しみながら山に登れてよかったです。メンバーの人達も楽しい人達ばかりだったので、あっという間の7日間だった。

西田 秀輝 (1回生 文学部 石川県)

ド快晴の中、八ヶ岳を完全制覇できたことが非常に良かったです。

行事報告 (94年度夏合宿以後)



・合ワシ 8/20~8/22

→医王の里△→三蛇ヶ滝→白瓦山→医王の里一車使用→角間キャンパス△→

C L 藤牧 (右含む3年8名、2年15名、1年7名、福井大学4名、福井工大3名、富山大学3名、富山女子短大6名、計46名)

・南アルプス深南部 P.W. 8/24~8/28

→水窪駅→営林署小屋△→中ノ尾根山→三又山△→トサナ山→笹ノ平△→池口岳→光岳→光小屋△→易老岳→本谷口→

L 佐川 S L 藤牧 友野、小林、三浦

・立山、大日岳 P.W. 8/24~8/26

→室堂→雷鳥平△→立山三山→別山→雷鳥平△→大日岳→室堂→

L 沢田 S L 福田 正善、牧原、川本

・蒲原良太郎君を偲ぶ劔岳 P.W. 8/27~8/28

→室堂→劔沢△→劔岳、前劔→室堂→

L 立川 S L 石川 奥出、奥、松浦、望月、伊藤、井村、岡田、宮崎、清水、朝日、田中、新倉、樫村、柴田、前田顧問、蒲原新太郎さん、蒲原道子さん

・雲ノ平、高天原 P.W. 8/30~9/3

→折立→薬師峠△→雲ノ平キャンプ場△→高天原→三俣蓮華岳→黒部五郎小舎△→黒部五郎岳→折立→

L 吉原 S L 若山 石川、清水、小泉

・94年度小屋作業 9/19~9/23 (小屋修復作業第2期工事-床板張り)

→犀川ダム→B.H.下△→犀川ダム→

C L 戸田 C S L 山口、柴田 P L 若山、山本、福田、新堀 (右含むOB1名、4年4名、3年8名、2年11名、1年7名、計31名)

ノアザミ



日本には、60種ほどのアザミがあるが、春から初夏にかけて大きくアザミはノアザミだけ。白山では夏にさくよ。

・北山川、熊野川 P.W. 9/24~9/27

→田戸△→瀬八丁→赤木川合流点付近△→河口付近△→新宮→

L 田中 S L 伊藤 新保、宮崎、福田、金吉、川本、岩倉

・飯豊連峰 P.W. 9/25~9/28

→温身平△→梶川尾根→カイラギ小屋△→飯豊山△→弥平四郎→

L 山口 S L 石川 奥出、新堀、小西

・口三方岳 P.W. 10/1~10/2

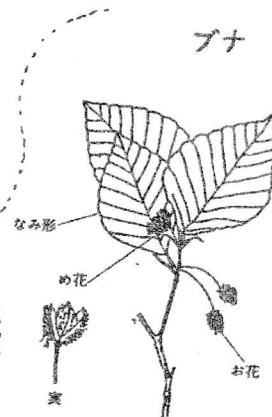
→登山口△→口三方岳→

L 牧原 S L 若山 宇根、小林、佐川、西田、石谷

・百四丈 P.W. 10/8~10/9

→丸石谷△→黒滝→

L 金吉 S L 橋本 奥出、石川、朝日、新倉、宮本、浅野



豆知識

石川県では白山のまわりに多いけれど、金沢市の戸室山や能登の宝達山、石動山、鉢伏山など低い山の頂上にも残っているんだよ。実は三角すいの形をしていて人間が食べてもおいしい!

犀川ダムから高三郎山までの状況

犀川ダムからの道は山菜取りの人達などが草刈りをしてくれているので、ひどい時でもどこが道かは必ずわかると思います。危険な所は、出島から吊橋の間で何ヶ所か道が崩れかけている所があることです。踏み外すとダム湖にはまってしまうような感じです。吊橋を渡れば B.H. まで15分位の何の問題もない道です。

B.H. は今年の小屋作業で床板も張られ、雨漏りが少しありますが、十分に宿泊可能となっています。登山道から B.H. へは特に看板などはありませんが、皆さんが良く知ってらっしゃる頃のままで、変わっていないと思います。今、B.H. には落書き帳と麻雀牌以外のものはないので、宿泊なさる方は各自で必要なものを持参してください。

B.H. から高三郎山までの登山道は、ここ2年程小屋作業で小屋の修理をやっていたため、新道に関しては、本格的な整備は行なっておらず、部としての新道の使用は、ここ3年程あまりおこなわれていません。今では現役部員の中にも新道を登ったことのある人間は少なくなっているため、現在どのような状況かは詳しくはわかりません。旧道の方は、新トレ前に整備が行なわれているために現在も確実に通行可能です。注意する所は、前高三郎以後の道が5月頃から所々木の枝などが道にせりだしてきて歩にくくなることと、ピーク手前2ヶ所で道が急登になり少し崩れているためロープがあることぐらいで、それ以外は特に問題はなく通行できると思います。

皆さんがよく知ってらっしゃる頃と、高三郎周辺の環境はそれほど変化していないと思います。高三郎に快適に登れる時期はとても限られています。私も夏に B.H. へ行き、オロロの大歓迎を受けました。もし忘れてしまった方がいらっしゃれば注意してください。

文責 福田武志 (37期)